

(別紙様式=小学校用)

都道府県番号	31
都道府県名	鳥取県

【 ①  ②  ③  】

I 学校名及び規模

学校名	鳥取県倉吉市立河北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	2	16	23
児童数	64	78	71	69	64	74	6	426	

II 研究の概要

(1) 研究主題

輝く瞳とみがきあい  
～あたたかい人間関係の中で、自ら考え、学び合う子どもの育成～

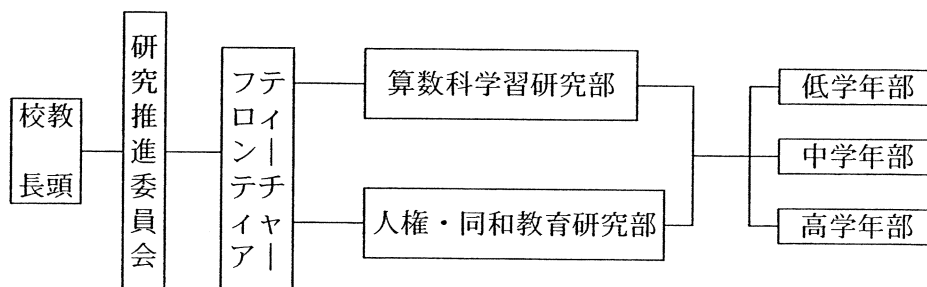
(2) 研究主題設定の趣旨

本校は、これまで少人数学習担当教員2名を中心に主に算数科の少人数学習に取り組んできた。習熟度別学習も軌道に乗り、「算数がすき」という子どもたちも増えてきた。しかし、主体的な学習をねらうとき、まず自分の考えが持てなかったり、友達の前でその考えをしっかりと表現できないために「学びあう」姿にならないことがあった。

そこで、本年度はフロンティアスクールの指定をよいきっかけとし、明るく生き生きと、友達と声をかけながら切磋琢磨してほしいという願いから、副主題を「あたたかい人間関係の中で、自ら考え、学びあう子どもの育成」と設定して取り組んできた。まず自分の考えをしっかりと持ったうえで、友達とお互いに学び合うことを大切に考えて研究を進めてきた。またその基盤となるものは、子ども同士、子どもと教師のあたたかい人間関係の中でこそ培われるという考えにたち、人権・同和教育にも力を入れてきている。

III 研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

(1) 研究推進体制の工夫



算数科学習研究部に少人数学習担当教員が2人入り、それぞれ3・4年と5・6年の算数を担当し、教材等の作成に当たった。

(2) 研究の実際

<研究の概要として>

①ねらいを達成するための算数学習の時間の工夫

ア) 発達段階に応じたノート指導を徹底する。中・高学年においては、考えのあとが分かるようなノート作りをめざす。

イ) 「反省カード」を活用した学習の充実を図る。

・次時の指導につながる毎時間の学習の「反省カード」の工夫をし、指導と評価の一体化を図る。

◎ 学習の最後5分間を大切に授業展開

◎ 1時間1枚の反省カードに評価問題を盛り込み、学習の最後に何も支援を行わず自力で解かせて、定着を見る。

② T・T、少人数学習等による、個に応じたきめ細かい指導の工夫

・1・2年生のT・T、3・4・5年生の2C3T(国、算)、6年生の1C2T(算)の少人数学習の充実を図る。特に3年生以上の算数科では習熟度別学習を継続し、個人差に応じた指導の工夫に取り組む。

・習熟度別少人数学習においては、各コースの特徴を明確化し、各コースに合った指導法や教材教具の工夫をする。

◎ねらいは同じだが、使用するプリントや着眼点を変えて個に応じた指導をする。

◎コースによって、体験的活動に重点を置いたり、パソコンで学習をするなど、特徴を持たせる。

<補足的な学習につながる「反省カード」の活用について>

本校では少人数学習を実施し始めて

3年目だが、昨年度より、毎時間の自己評価カードを、単なる「楽しかったか」「分かったか」のみのカードではなく、本時のねらいを達成できたのかどうかははっきり分かる評価問題をも取り入れたカードに移行してきた。昨年度は6年生のみだったが、今年度は担任の要望もあり3年生以上すべての学年で実施した。

①活用の実際

まず、レディネステストの結果をもとに教材研究していく中で検討し、少人数担当教員が中心に作成し、毎時間の終わり3分から5分で行う。時間的に余裕がある場合は、担当者が一人一人時間内にチェックしつまずきを直して本時を終える。時間がない場合は、集めて次時のはじめに児童に返している。

②学習との連動

学習の終わりに、教師の支援がない状態で取り組んだ評価問題の結果は、1時間の中での理解度を如実に表している。「分かった」と書いていても答えが違う場合は多々ある。この結果を見て、指導者は次時の手だてを考えることになる。

評価問題が間違っていた子どもへ → 放課後など時間外の個別指導

同じ間違いを多くの子どもがしていた場合 → 次時のはじめに誤答例を示し、復習してから本時の内容に入る。

全体的にみて「理解されていない」と判断した場合

→ 数値を簡単なものに変えたり設定をかえたりするなど、指導法を変える。もう一度指導する時間をとる。

理解できている児童とそうでない児童の差があったとき

→ 少人数学習の3つのコースをといて、元のクラスに戻すなどして、T・Tに切り替える。

③子ども自身の振り返りと、家庭との連携

この反省カードは、単元終了後単元全体を見通して感想を書くなどして、子ども自身

NO2 反省カード																					
( )組 名前( )																					
今日のポイント																					
長さや重さを小数で表そう。																					
① 1 m 7 0 cmは何mでしょう。	<input type="text"/> m																				
② 3 kg 600 gは、何kgでしょう。	<input type="text"/> kg																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">わかったか</th> <th colspan="2">学習の反省</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>いいえ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>楽しかったか</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		わかったか		学習の反省		はい	いいえ							楽しかったか							
わかったか		学習の反省																			
はい	いいえ																				
楽しかったか																					

の学習内容そのものの振り返りとなる。毎時間の基本的な問題があり、自分の間違えたあとも残っているため、テスト前の復習にも活用している。また、定期的に家庭にも持ち帰り、保護者の目も通すことによって、家庭と学校の情報交換の場となっている。

＜少人数学習のコースごとの特徴を生かすことと「発展的な学習」＞

習熟度別学習を取り入れて3年目の今年の重点を、「コースごとの特徴を生かす」ことにおいて取り組んできた。たとえば5年生の「小数のかけ算とわり算(1)」において「小数÷整数の意味を理解し、その計算ができる」ねらいの学習では下記のような重点をおいた指導を仕組んでいる。

学習のねらいは同じでも、選んだコースによってそれぞれ学びのスタイルをかえて、確かな学びへの改善につなげている。

発展コースの子どもたちは、同じ内容でもよりよい学びをすることができ、私たちはこれも「発展的な学習」ととらえている。

コース	ねらいに即した重点指導
小木コース	線分図がかけるようになる。
金平コース	線分図のかき方を理解し自力解決する。
山下コース	線分図をかき、説明がしっかりできる。

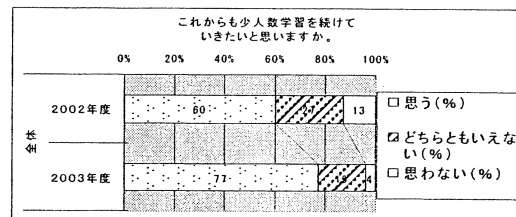
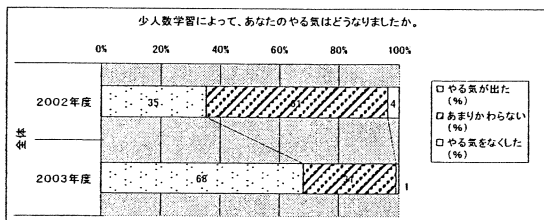
また、特徴をもたせたり、補充的な学習を充実させるほど、コース別に時間のずれが出てくる場合がある。そのときは、発展コースの子どもたちとさまざまな角度からの学習を楽しむこともできた。

- ① 3年生 「1kgをつくろう」砂→積み木→水→油
- ② 4年生 「分数」分数とわり算の関係や、分数の加減計算への発展
- ③ 5年生 「割合」クラスで「スマップの誰がすき？」アンケートを行い割合の表作り
- ④ 自分問題作り お互いに問題を出し合う中で、むやみに数値を大きくした問題ではなく、思考力を問うよい問題に気づけるようになる。

### (3) 研究の成果と課題

#### 1. 研究の成果

- ① 「みんなでやる」「最後までやる」「保護者を巻き込む」という合言葉のもと、全職員で話し合いを重ねながら進めた結果、教師同士の連携が深まり、同じ考え方で子どもの指導に当たることができた。
- ② 習熟度別学習や T・T 学習を進めることで、教材研究やコースごとの特徴を生かした指導について研究が深まり、児童一人一人に応じたきめ細やかな指導ができつつある。少人数学習に対する児童の意識も年々高まっており、肯定的に受け止めている。
- ③ 毎時間のねらいを明確にし1時間ごとの反省カードを有効活用することにより、子どもの学習意欲が高まり、自分の学習を振り返る姿勢が身に付きつつある。



#### 2. 研究の課題

- ① 少人数学習を実施している学年が70人前後という人数のため、少人数学習といっても基礎コースを少ない人数にすればするほど、他のコースが30人を超える場合もある。補充的な学習の研究をさらに進め、個に応じた指導を工夫する必要がある。
- ② 児童一人一人が自分の考えを持ち、それを表現する力を持つことによって、練りあい、学びあう学習が生まれてくる。さまざまな形で「表現力」を養う取り組みを推進する必要がある。そのことが、真の「発展的な学習」への基盤になると考える。

(4) 研究成果の普及の方策

○授業研究会の公開

校内の授業研究会は、主に同じ中学校区の学校には毎回紹介し、ともに研究を深めることができた。

特に10月に行った筑波大学附属小学校の坪田耕三先生による示範授業は、5年生を対象に、同じねらいの内容で違うコースのこどもたちに時間をずらして授業をしていただいた。多くの先生方においでいただき、少人数学習のコース別の特徴を生かす学習について研究を深めることができた。

○鳥取県中部地区学力向上推進協議会

平成16年1月27日

○鳥取県教育研究発表会

平成16年2月10日

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校

【学校規模】     6学級以下     7～12学級  
                   13～18学級     19～24学級  
                   25学級以上

【指導体制】     少人数指導     T・Tによる指導  
                   一部教科担任制     その他

【研究教科】     国語     社会     算数     理科  
                   生活     音楽     図画工作     家庭  
                   体育     その他

【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】     有     無